

# 国立公文書館所蔵の幕奉行関係資料について

高橋 喜子

## はじめに

幕奉行（まくぶぎょう）とは、江戸幕府の役職の一つで、幕府が所持している陣幕等の幕を管理することを職務としている。幕奉行は多聞櫓（多門櫓）で幕を保管しており、加えて同職務関係の日記や留、書付等の資料も同所で保管していた。そのほか、幕奉行が他の役職へ提出した書類等も別途多聞櫓等に残されていた。それらの多聞櫓で保管された記録類は、現在、多聞櫓旧蔵資料として国立公文書館（以下、当館）に伝わっている。

多聞櫓とは、多聞ともいい、城の石垣の上に築いた長屋造りの建物を指す。江戸城には多数の多聞櫓が存在し、それぞれ管理者が異なっていた。多聞櫓は兵器庫と防壁を兼ねた施設であるが、戦がなくなつた江戸時代には、物や文書を保管する倉庫としても利用されていた。本来ならば軍事施設であつた多聞櫓などが、記録類の保管庫として利用される事例は、江戸城のみならず他藩の城でもみられる<sup>1)</sup>。

本稿では、主に、多聞櫓旧蔵資料に含まれる、幕奉行関係資料を紹介する。はじめに幕奉行という役職の概要を示した上で、当館所蔵の幕奉行関係資料の全体像と資料内容の一端を紹介したい。

なお、参考資料や文献については、基本的に初出の際に注で書誌事項を示し、二回目以降は注記を略した。ただし、年月日や通し番号等、資料を

特定する上で必要な情報は個別に記載した。引用資料は適宜読点を打ち、旧字体や異体字は原則として新字体に改めた。また、資料中の傍線や記号は筆者によるものである。

## 一 幕奉行とは

まず幕奉行の基本情報を整理する。幕奉行は江戸幕府の役職の一つで、幕臣のうち旗本が就任する役職である。陣幕（軍幕）などの幕の管理を職務としている。古くは『明良帯録』<sup>2)</sup>や『吏徴』<sup>3)</sup>等の江戸幕府の各役職の職掌や沿革についてまとめた書に記載がある。それらによれば、幕奉行は御目見以上の役職で布衣以下、留守居支配<sup>4)</sup>、焼火間席、持高勤、役扶持十人扶持、定員は二名である。

御目見以上とは将軍への謁見が許される身分（旗本）であることを指す。布衣とは武家の礼服の一つで、布衣以上は礼式目に布衣を着用することが許される身分であり、六位相当以上、一方、布衣以下とは布衣の着用が許されない身分のことを言う。御目見以上の旗本は、布衣以上と布衣以下では格式の大きな差があり、布衣以上であることは一つのステータスである。

例えば、旗本が就く役職のうち町奉行や勘定奉行は布衣以上の役職である。留守居支配とはすなわち幕奉行が留守居の配下にあることを示す。留守居とは江戸城の奥向きの取り締まり、関所手形の発行、江戸城諸門の通行証の発行などを掌った役職である。老中の配下にあり(老中支配)、御目見以上、諸大夫役(五位相当)の役職である。焼火間(たきびのま)とは江戸城本丸御殿の焼火間を指し、焼火間席とはこの焼火間が江戸城内の詰間(つめま、つめのま)であることを言う。

持高勤(もちだかづとめ)とは、役職の基準高である役高の設定がなく、個々の家禄をもって勤務することを意味する。従って、家禄が低い場合にも基本的に足高は適用されない。しかし、『御幕奉行代々記』によれば、幕奉行は足高の適用を受けている者が多数みられる。なお、足高とは、役職に就任する者の家禄が役高に達しない場合、その不足分を在職中に限って加給する制度である。

幕奉行の配下には同心(幕同心)と中間がいる。幕同心は御目見以下の御家人である。『明良普録』と『吏徴』(御幕奉行の項)では「同心八人、中間十二人」とあるが、『吏徴』(御幕奉行組同心の項)では「御幕奉行組同心三十六人」あり、続いて「二組十八人 式拾俵式人扶持高 御抱場」との記載がある。幕奉行の成立時期は、『吏徴』によれば二説あり、一つは寛永一四年(一六三七)九月一日に一名がはじめて任命されたという説、もう一つは寛永二〇年二月一日に三名がはじめて任命されたという説である。

また、『御触書集成』6や『徳川実紀』7等の史料により、いくつか情報を補足すると、席次は万治二年(一六五九)に「躑躅間北ヨリ二之間」と定められ、延享元年(一七四四)に「焼火之間」に改められた(『御触書寛保集成』一九、二二)。幕奉行は当初、役扶持はなく、定員も定められてい

なかったが、享保九年(一七二四)に役扶持十人扶持が支給されることが通達され、定員が二名と定められた(『御触書寛保集成』一七二五、『徳川実紀』享保九年七月二三日条)。寛政四年(一七九二)には幕奉行配下の中間が廃止されている(『御触書天保集成』五二〇六)。文久二年(一八六二)、幕奉行は具足奉行が兼帯することになり、廃止された(『続徳川実紀』文久二年九月四日条)。

幕奉行は、明治以後、現代に至るまで、江戸幕府の役職を解説した書や事典などで項目として取り上げられることはあつたが、いずれも簡単な解説のみで、本格的な研究はなされていない。そして、当館所蔵の幕奉行関係資料は、公開資料であるものの、一般にはほとんど知られておらず、これまで幕奉行を解説した文献等でも利用されてこなかった。本章ではそうした当館所蔵の幕奉行関係資料を紹介する。

## 二 幕奉行関係資料の概要

ここでは当館所蔵の幕奉行関係資料の概要を説明する。当館所蔵の幕奉行関係資料については巻末表「幕奉行関係資料一覧」に示したとおりである。幕奉行のみならず、幕同心に関わる資料も関係資料として一覧に掲載した。

今回、当館所蔵の幕奉行関係資料を調査した結果、一六五五点の資料が確認された。全一六五五点のうち、三五五点が冊子体、残りの一三〇〇点が一枚物(断簡含む)や包紙である。冊子体には御用留、留帳といった職務記録の他、廻状留なる幕奉行へ回覧された廻状や触書を書き留めた資料等、幕奉行の職務を遂行するにあたり、比較的継続的に書き記され、保管されてきた記録類が存在する。また、日光社参に関する留書等が複数残されている

ことも特徴的である。これは幕奉行が日光社参の行列に供奉していたことが関係している。なお、冊子体三七点のうち、五点は多聞櫓旧蔵ではなく、中には幕奉行が作成したわけではない資料も含まれている。

一枚物（断簡含む）は、幕奉行が業務上の必要に応じて他役とやり取りした際に発生する資料（手紙や書付、覚、届書、証文、誓詞等）ないしその扣が多数残されている。これらの一枚物は、年代はバラバラで、内容も多岐にわたり、非常に雑多な資料といえる。また、幕奉行が保管していたものと、他役が幕奉行から受け取って保管していたものが入り混じっており、幕奉行関係資料であることは確かであるものの、当時の部署で保管されていたかを推測することは容易ではない。いずれにせよ、多聞櫓で一時的に保管していたものが、長らく処分されることなく、偶然にも残されていたとみるべきだろう。

旧蔵が多聞櫓とある資料のうち、請求番号が〇〇〇・〇〇〇〇（数字三桁＋ハイフン＋数字四桁）と表記される資料は、大正と昭和後期にかけて整理された資料で、『改訂 内閣文庫国書分類目録』（国立公文書館内閣文庫、一九七四～一九七六年）にも掲載されている。多聞櫓文書のうち状態の良い冊子体のみ抜き出して先に整理したようである。請求番号が多〇〇〇〇〇〇（多＋数字六桁）と表記される資料は、一紙物や断簡が中心であったことから、長らく未整理で残されていた多聞櫓文書で、昭和五二年（一九七七）以降、順次整理された資料である。なお、多聞櫓文書の整理状況については大賀妙子らの研究に詳しい<sup>10</sup>。昭和五二年以降に整理された多聞櫓文書は、閲覧用の目録稿本が作成されており、「職制の部」、「明細短冊の部」、「誓詞の部」、「扶持米証文の部」等、項目ごとに資料を分類して掲載している。国立公文書館デジタルアーカイブにおいて、これらの資料は横断的に検索することが可能となっている。

表1 当館所蔵の幕奉行関係資料の年代

和暦	西暦	点数
延宝	1673～1681	1
元禄	1688～1704	1
宝永	1704～1711	3
享保	1716～1736	5
元文	1736～1741	2
寛延	1748～1751	1
宝暦	1751～1764	2
明和～安永	1764～1781	2
安永	1772～1781	2
安永～享和	1772～1804	1
寛政	1789～1801	3
享和	1801～1804	1
文化	1804～1818	2
文政	1818～1830	30
文政～天保	1818～1844	2
天保	1830～1844	25
弘化	1844～1848	2
嘉永	1848～1854	1
安政	1854～1860	5
万延	1860～1861	1
文久	1861～1864	1
元治	1864～1865	1
年代不明		73
	合計	167

※年月日の項目により区分しており、標題に含まれた年代は加味していない。

表一に幕奉行関係資料の年代について、元号ごとに区分して統計を示した。年代不明の資料が半数近くあるが、年代が判明している資料に関して分析すると、大半は江戸時代中後期以降の資料であり、特に文政と天保期（二八一八～一八四四）の資料が突出して多い。中でも、この期の幕奉行である吉見定右衛門、山田周蔵、石寺八蔵らは、小普請入願等、個人的な記録が存在しており、資料から彼らの略歴を知ることができる。文化・文政期以降は『寛政重修諸家譜』のような幕府編纂の家譜が存在しないことから、幕臣の略歴を知る上で、小普請入願は信憑性がある資料として貴重である。

一方で、延宝と元禄頃の比較的古い記録も数点残されている状況は興味深い。延宝七年（一六七九）の資料である「請取申御幕之事」（多〇二二八一〇）と元禄二年（二六九九）の資料である「大御奥御用二付純子御幕等請取申候段覚」（多〇三三三三三）は、資料の内容、料紙の質や大きさからして、後の写本等ではなく当時の原本である可能性が高い。このように、当館では幕奉行に関する興味深い資料を多数所蔵している。

### 三 資料解説

ここでは、幕奉行関係資料について、個々の資料の解説を行う。紙幅の都合上、全てを紹介することはできないので、本稿では特に幕奉行の職務とその記録類に注目して解説を行いたい。なお、冒頭の数字は本稿の最後に掲載した参考表と対応しており、資料の書誌事項については参考表を参照されたい。

#### 【二五】諸書物目録(多〇一二三〇)

御用留や廻状留等、幕奉行で保管している職務記録を列挙した目録。列挙された記録の年代や目録末尾の「子八月」という記載から、文政一一年(一八二八)頃に作成された目録と考えられる。冒頭には「月番送御用箱入候書物諸書」とあり、月番間で引き継ぐ書類が列挙されている。御用留をはじめ、由緒書、誓詞等、人事記録に関わる書類も月番間で引き継がれていたようである。このほか、「百人番所脇御多門に納もの分」という、百人番所脇御多門で保管している資料も列挙されている。ここには、古い御用留の他、廻状留も記されている。

目録を見る限り、御用留は、享保二年(一七一七)以降、文政年間に至るまで比較的継続的に作成されていることが確認される。また、廻状留は寛政六年(一七九四)以降、継続的に作成されているようである。しかし、当館には現在、幕奉行の御用留及び廻状留は数点しか残されていないので、多くがすでに失われてしまったということであろう。

#### 【二四】御幕方記録(多六一〇〇五五)

享保から延享年間にかけての幕奉行の記録。年月日が順不同になっているが、享保九年(一七二四)～延享四年(一七四七)の記録が含まれている。「寛」や「覚」と題する書類の写しが多く、その内容は幕奉行の職務である幕の管理に関する記事から幕奉行・幕同心の人事に関する記事まで多岐にわたる。特に際立って多いのが人事記録であり、幕奉行・幕同心の任免や俸禄、同心の人数や由緒書、拝借金等、幕奉行や幕同心の個人に関する記録が多く記載されている。また、「古帳之覚」と題した、過去の帳面に関する記録もある。

#### 古帳之覚

一、正徳六丙申二月福王忠左衛門・沢平吉・石川兵左衛門与有之帳一冊(A)

一、同六月十二日福王忠左衛門・沢平吉・石川兵左衛門・野沢源左衛門与有之帳二冊(B)

(ア)右丑十二月朔日河内守殿御用之由二而大島肥前殿江進之、其後御催促申候へ共、此方江返り不申候、巳六月廿六日大久保下野殿江者訣申違置

一、延宝九辛酉六月竹内新五兵衛・清野権左衛門と有之、最所ハ余語弥三郎・坂部市平・難波田善左衛門・伊吹市右衛門と有之帳一冊(C)

宝永二酉五月晦日森武太夫・朝比奈弥兵衛と有之、最所者加藤久大夫・杉山七左衛門・沢平吉・福王忠右衛門と有之帳一冊(D)



一、宝永七寅十一月と有之帳一冊(E)

一、宝永六丑六月と有之帳二冊(F)

(イ) 右同御用二而同日是又肥前殿江進候処、巳七月八日大久保下野殿  
に御返シ

(ウ) ■■■明暦二混白、万治二御紋付御幕出来以後御幕出来不申候哉并

権現様以来■■■御幕之書付二而茂有之哉与御吟味二付而御取寄  
御覽之由也、

※■■■は虫損箇所。

「古帳之覚」には、幕奉行が保管していた古い帳面について、年月日や幕奉行の名前、冊数が簡条書きで記され、かつ御用による帳面の提出と返却の有無、提出の経緯等が書き留められている。この覚をいつ記したのか、書写年月日の記載はないが、傍線部(ア)・(イ)の記述により、この覚が記されたおおよその年代が推定できる。傍線部(ア)・(イ)の人名は、河内殿は老中の井上正岑(河内守)、大島肥前、大久保下野はともに留守居で、大島義也(肥前守)、大久保忠位(下野守)である。A・Bより正徳六年(一七一六)以降であることがわかり、前記三人の補任及び転・免年月日を加味すると、丑十二月朔日は享保六年(一七二二)、巳六月廿六日及び巳七月八日は享保一〇年と判明する。従って、この覚は享保一〇年以降に記されたものと考えられよう。

傍線部(ア)・(イ)によれば、享保六年一二月朔日に老中井上の御用のため、A〜Fの計六本の帳面を留守居の大島へ提出した。その後、C〜Fは享保一〇年七月八日に留守居の大久保から返却された。一方、A〜Bは催促したものの返却されず、欠本となっている旨を享保一〇年六月二六日

に大久保へ報告している。御用の理由は末尾の傍線部(ウ)に記されており、それによれば、明暦は混白、万治は御紋付の幕を制作して以後、幕は制作していないのか、書付に記されているか、調査するために取り寄せて閲覧したという。なお、『明良帯録』には、混白の幕は御当家第一の吉例の幕であると記されている。

ところで、A〜Dの帳面に記された人名は、いずれも幕奉行のようだが、数名、幕奉行であることが断定できない人物がいる。それは、Cの竹内新兵衛(信親)と清野権左衛門(貞張)、Dの森武太夫(政貞)と朝比奈弥兵衛(昌屋)の四名である。この四名については、幕府の編纂した主要な編纂物である『寛政重修諸家譜』や『徳川実紀』から幕奉行であることが確認できない。ただし、彼ら四人はある共通した経歴を有している。竹内と清野は五代將軍徳川綱吉の館林藩主時代の家臣、森と朝比奈は六代將軍徳川家宣の甲府藩主時代の家臣で、いずれも武具奉行を勤めており、その後、綱吉、家宣が將軍世嗣となったことに伴い、幕臣となるという経歴である。前述したとおり、彼ら四人には幕奉行を勤めたということが幕府編纂物に記載はないが、「御幕方記録」及び「御幕奉行代々記」には幕奉行として彼らの名前が記されている<sup>1)</sup>。幕奉行なのか或いは別の役職名なのかは定かではないが、実質的には後世から見ても幕奉行の職務を勤めていたであろう。そのため歴代奉行の中に組み込まれていると考えられる。この点については綱吉、家宣の家臣団の幕臣化と密接に関わる問題であり、更に詳細な検討が必要となることから、ここでは問題を指摘するに留め、武具奉行と幕奉行の関係については別稿に譲りたい。

【二五九】御留守居衆より御達物留（一八〇・〇一二）

留守居から幕奉行へ通達された、廻状や達を書き留めた資料。文政一年（一八二八）から天保二年（一八三一）まで記載があるが、文政二年の記事が最も多い。目録には幕奉行の資料であるとの記載はないが、中表紙の表題に、幕奉行である鈴木善左衛門と山田周蔵の名前がある。鈴木善左衛門の幕奉行在任期間が文政一〇年～天保一〇年、山田周蔵のそれが文政一一年～天保七年であることから、資料年代と両者の幕奉行在任期間は一致する。資料内容も幕奉行宛の廻状等を書き記したものとみて間違いないことから、幕奉行関係資料であると判断した。実はこの資料には、興味深い廻状が収録されている。次にそれを挙げる。

①寅八月四日朝 大久保彦太夫方周蔵方江差越、本書即刻

三浦儀十郎方江順達、

支配向諸願増減并差出来候書物類取調、当月中

我等方江可被差出候、

一、支配向忰共十七歳方十九歳迄のもの、素読吟味差出者姓名短冊

等、例年之通当月中我等方江可被差出候、依之相達候、被得其

意早々順達、從留り可被相返候、以上、

八月四日

石川左近将監

五奉行宛

佐々木卯之助殿

②寅八月八日 大久保彦太夫方差越、

同日 三浦儀十郎方へ順達、

前二有之 廻状

石川左近将監

二重

佐々木卯之助殿

支配向諸願増減并差出来書物類取調、当月中

我等方江可被差出候、

一、支配向忰共十七歳方十九歳迄のもの、素読吟味差出もの姓名書

短冊等、例年之通当月中我等方江可被差出候、依之相達候、被

得其意早々順達、從留<sup>り可</sup>被相返候、以上、

八月四日

石川左近将監

御鉄炮玉菓

奉行中

御鉄炮御箆筥

奉行中

御弓矢鏢

奉行中

御具足

奉行中

御幕

奉行中

佐々木卯之助殿御廻状之趣奉承知候

御廻状之趣奉承知候

大久保彦太夫

大岡源右衛門

御廻状之趣奉承知候

前原弁蔵

熊谷大助

これは天保元年（一八三〇）八月に幕奉行へ回覧された廻状である。二

点の廻状が記されているが、両者とも内容は同じであり、区別するために

便宜的に廻状の冒頭に①と②を付した。差出人は留守居の石川左近将監(忠

房)。宛名は五奉行(鉄炮玉葉奉行、鉄炮箆筒奉行、弓矢鍵奉行、具足奉行、幕奉行)及び大筒役の佐々木卯之助。なお、五奉行と大筒役はいずれも留守居支配である。内容は支配向の諸願や高の増減を取りまとめて今月中に提出すること、また、各役職の息子のうち、一七歳から一九歳で、素読吟味を行う者の姓名書短冊等を今月中に提出することが命じられている。①、②とも、冒頭の記載に、廻状は弓矢鍵奉行の大久保彦太夫から幕奉行へ到来、その後、鉄炮玉葉奉行の三浦儀十郎へ届けたとあり、廻状を五奉行及び佐々木卯之助の間で順次回覧していたことがわかる。①が八月四日付、②が八月八日付なので、同じ内容の廻状が日を置いて二度回覧されたようである。なお、②の冒頭、寅八月八日から佐々木卯之助殿までの記載は、書状の端裏書と考えられる。②の廻状は、宛名の下に承知した旨が記されていることから、廻状に直接、承付を記して回覧していたことがわかる。

さて、この廻状の重要な点は宛名の五奉行の表記の仕方である。①は五奉行、②は鉄炮玉葉奉行、鉄炮箆筒奉行、弓矢鍵奉行、具足奉行、幕奉行とある。実は幕奉行が留守居支配の五奉行の一つであることは『明良帯録』をはじめ、小中村清矩、和田英松、笹間良彦らが指摘している<sup>12</sup>。しかし、『明良帯録』は五奉行と記しながら弓矢鍵奉行の記載が抜けており、小中村、和田、笹間はいずれも資料的根拠を示していないので、当時、本当に五奉行という名称が用いられていたのか、五奉行にあたる役職はこの五つの役職で本当に正しいのか、些か疑問であった。だが、この廻状の記載によつて、五奉行は鉄炮玉葉奉行、鉄炮箆筒奉行、弓矢鍵奉行、具足奉行、幕奉行を指し、当時から「五奉行」という名称が用いられていたことが証明された。また、「御留守居衆より御達物留」には、この廻状以外にも、「五奉行宛」の廻状が多数収録されており、五奉行という大きな枠組みで廻状が回覧される実態があったことが判明した。

【一六一】御幕奉行代々記(二二〇・〇〇七〇)

歴代幕奉行の任免記録。作成者不明。享保期以前は氏名のみだが、享保期から安政期までの歴代幕奉行の任免情報が記されている(多くは任命情報のみ)。資料は裏打ち等の修復が施されているものの、虫損が激しく、判読不能箇所もある。任免年月日の記載に一部誤りもみられるが、概ね正確な情報が記されている。また、元高(家禄)と足高の記載があることから、家禄と足高の比率を知ることができる。歴代の幕奉行就任者については、『柳宮補任』<sup>13</sup>に記載があるが、寛文期以前は記載がなく、文化・文政期は情報に欠落があり、就任者全員が網羅されているわけではない。「御幕奉行代々記」も、前述したとおり、享保期以前は氏名のみしか記載されておらず、文久期以降は記載がないという欠点はあるが、江戸時代初期や文化・文政期について、『柳宮補任』の不足を補う情報が記されていることは特筆すべきである。

【一六三】御幕奉行御用向書上并当用留帳(二二〇・〇〇七九)

明和二年(一七六五)から安永四年(一七七五)までの幕奉行の業務記録。日々の出来事、他役とのやりとり、人事記録等が年代順に記されている。幕奉行には月番があったようである。基本的に各月の冒頭に月番の奉行の名前が記されている。日付は飛び飛びで、毎日記載しているわけではない。必要に応じて書き記していたのだろう。留帳の冒頭には次のような前書がある。

宝暦五亥年九月迄之留メ書有増有之、其以後之儀留帳扣書等茂無之、  
近來之儀難相知候、御役所一向帳面等も無之、当時取扱致迷惑候、依  
之已來当役御勤之方為見合旁当酉年と同役申合帳面相仕立候間、向後  
御用向諸事此帳面御認置可被成事

明和二酉年正月

伴 善太夫

田中弥五人

これによれば、宝暦五年（一七五五）九月までは留書があつたが、それ以後、留帳や扣書がなく、近來の状況を知ることができない上、役所にも全く帳面等がなく、職務に支障をきたしているという。そのため、当酉年（明和二年）より、同役で申し合わせて帳面を作成するので、以後、御用向は諸事この帳面に記し置くようにと記されている。なお、伴善太夫（政方）と田中弥五郎（忠義）は当時の幕奉行である。伴善太夫が幕奉行に就任したのが宝暦五年二月二四日、田中弥五人が明和元年二月四日なので、伴が幕奉行になつた時点ですでに記録は作成されなくなつていたとみられる。なぜ急に記録を作成しなくなつたのか、理由は定かではないが、それによつて業務上の不都合が生じ、再度、業務記録を作成することになつたようだ。

【一六五】御幕奉行吉見定右衛門日記（二五七・〇〇四七）

幕奉行を勤めた吉見定右衛門（直心）が記した職務日記。文政五年（一八二二）十一月二六から文政七年二月晦日までの記録がある。中表紙の

表題には「文政五壬午年十一月（虫指）、同六癸未年、七申年同 日記」とあり、左下に「吉見」とあつて、彼の名字が記載されている。文政七年正月以降は新たな表題紙が作成されており、「御進達書上類御用留」という表題が記されている。ただし、表題は異なっているものの、記されている内容に大きな隔たりはない。彼は文政五年一月二七日に幕奉行へ就任しており、日記には就任の前日にもたらされた登城命令をはじめ、就任後の諸手続き、書類の文案等、幕奉行就任に関連した彼の動向が克明に記されている。奉行・同心の人事から幕の管理に関することまで、幕奉行の職務に関わる日々の様子を窺い知ることができる。

吉見定右衛門に関する資料として、「御幕奉行吉見定右衛門儀病氣二付御役御免小普請入願奉願候寛」（多〇三五七二三）<sup>14</sup>という御役御免を願ひ出した書類が多聞櫓文書の中に残されており、ここに彼の経歴が詳細に記されている。その資料及び『寛政重修諸家譜』によれば、宝暦五年（一七五五）に家督相続、安永四年（一七七五）に普請方同心仮役、天明元年（一七八一）に小普請方吟味手伝役、寛政元年（一七八九）に支配勘定を勤める。寛政一〇年に淑姫君様御用達となり、このとき御家人から旗本へ昇進した。文化一四年（一八一七）に豊奉行となり、文政五年（一八二二）に幕奉行へ就任した。文政一一年二月に御役御免を願ひ出ており、同三月に御役御免となつて小普請入している。文政一一年時点で八九歳なので、幕奉行就任時の文政五年は八三歳。かなり高齢といえる。

高齢ゆえだろうか、「御幕奉行吉見定右衛門日記」には、吉見の体調不良に関する記事がいくつか見受けられる。文政六年正月五日、豊奉行時に担当した「西丸御白書院其外御座敷向御修復」について褒美を拝領した際、西丸まで御礼廻りに出向くところ、本丸を出たところで、大雪が降つてお



り、にわかに癩（胸痛ないし腹痛）が起こり、西丸へは出向くことができず、帰宅した。このため差扣伺を提出している。文政七年正月元日にも、本来ならば登城するところ、眼病につき登城せず、提出書類を同役の佐野喜右衛門に託している。

「御幕奉行吉見定右衛門日記」は、先にも述べたように文政五年から文政七年までの記録であるが、中でも吉見の幕奉行就任初期、文政五年～六年の記録が比較的詳細である。日々の業務に関する記録を一部紹介しよう。次に紹介するのは、文政六年の幕の虫干の記録である。幕奉行は、毎年六～七月頃、夏の土用入りに合わせ、幕の虫干を行っている。吉見にとつては初めての幕の虫干であつたためだろう、提出した書付等も含め、詳細に記録を残している。

朔日

一、月次御礼兩人とも出ル、月番書豊前守殿江差出ス、今日方御預り御多門并雉子橋渡御櫓風入、右之段豊前守殿江定右衛門方申上候  
右出役組同心山川三郎次・小林右兵衛、日々五人ツゝ出風入、  
右之方退出方兩人とも見廻ル、

十三日

一、今日御幕御虫干初日二付、甲斐守殿江左之通御届書差出ス、尤甲斐守殿詰合無之二付、主膳正殿江差出シ御同人を甲斐守殿江御達被下候事、

御幕御虫干取掛之儀御届申上候書付式通

本紙美濃紙半切上包美濃紙打掛 御幕奉行

御幕御虫干今十三日より取掛申候、

相替候儀も無御座候ハ、御虫干之度々御届申上間敷候、依之

此段申上候、以上、

御幕奉行

未六月十三日 吉見定右衛門

佐野喜右衛門

六月十三日、晴、今朝巳ノ五刻土用入、

一、今十三日百人御番所脇於御多門御幕御虫干、定右衛門出役、組同心小林右兵衛・金子平四郎・荻野往助・佐藤庄司罷出、例年之通御虫干取扱、夕御台所此方共組同心分共相廻、御多門江御退出後見計本形二相仕廻、且樟脳八寸紙請取方二付、御納戸江定右衛門小林右兵衛・金子平四郎召連レ罷越候処、八寸紙ヲ受取、樟脳者来ル十七日渡り之積、仮受取書取之、右兵衛江相渡置候、  
一、茶壺条缶小普請方小遣江申談受取、御多門江遣ス、  
一、雉子橋方御虫干組同心山川三郎次・丹治庄右衛門罷出取扱届、御台所者兩人共御本丸御台所四間江相廻り頂戴いたす、右両方御虫干九時半時相済退散いたす、<sup>15</sup>

これは文政六年六月朔日（一日）と二三日の記事である。朔日に御預り御多門（百人番所脇御多門か）と雉子橋渡櫓の風入を開始、一三日には土用入りに合わせ、百人番所脇の多門において幕の虫干を実施している。また、雉子橋渡櫓へも組同心を派遣して虫干を行った。虫干の開始に際し、書付を留守居へ提出しているおり、書付の内容も書き留められている。このほか、虫干に伴い、食事を作業場まで回送してもらおう手続きを取ったこ

と、防虫剤である樟脳の配布を頼んだことなどが記されている。なお、雉子橋の虫干を担当した組同心は、江戸城の本丸御殿まで出向いて食事を食べたという。両方とも虫干は九つ半時（一三時頃）に終了した。

その後は、休日や雨天を避けて虫干を実施。六月二五日をもって虫干は終了した。同日の日記には、幕を長持へ納め、樟脳を入れ替えた上で長持を封印、その後、虫干が滞りなく終了した旨を留守居に報告したことなどが記されている。なお、多門と渡櫓の風入は七月晦日まで実施している。

本日記から、百人番所脇御多門と雉子橋渡櫓で幕を保管していたことがわかる。また、百人番所脇御多門（百人御多門）には、幕奉行の職務記録も保管していたようで、文政六年四月二十九日には、安永度の日光社参関係の記録が百人御多門にあるということになり、翌五月朔日、多門まで記録を取りに行ったことが記されている。このほか、幕奉行の職務記録として、月番間で引き継ぐ書類もあり、「御幕奉行吉見定右衛門日記」には引き継ぎに関する記録もみられる。なお、月番とは毎月の当番ことである。文政六年五月朔日に、五月の月番である佐野喜右衛門へ「御用葛籠」を送ったという記事がある（四月の月番は吉見）。その後、六月には再び吉見が月番となることから、五月二十九日に佐野から「御用葛籠」が吉見の元へ送られている。

以上のように、「御幕奉行吉見定右衛門日記」には、幕奉行の職務に関する日々の出来事が吉見の視点で綴られている。

## おわりに

本稿では、当館所蔵の幕奉行関係資料に注目し、その全体像と資料内容を紹介した。具体的な資料内容まで言及できたのはごく一部の資料であった

たが、当館所蔵資料を通して、これまで知られていなかった、幕奉行の実態に光を当てることができたとすれば幸いである。なお、留守居支配の五奉行のうち、幕奉行以外の奉行の資料は、一紙物が大半を占め、幕奉行関係資料にみられた、留帳等のまとまった職務記録はほとんどみられない。その意味でも、幕奉行関係資料は貴重な資料であるといえる。本稿が資料の利用促進と研究の進展に寄与することを願い結びとしたい。

1 山崎一郎『萩藩当職所における文書の保存と管理』『山口県文書館研究紀要』第三号、一九九六年三月。同『萩城櫓における文書の保存について』『日本史研究』第五〇三号、二〇〇四年七月。

2 『明良帯録』（近藤瓶城編・近藤圭造校訂『改定史籍集覧第十一冊』近藤活版所、一九〇一年）。『明良帯録』は、小田原藩士山県彦左衛門が著したとされ、文化十一年（一八一四）の自序がある。

3 『吏徴』（国書刊行会編『続々群書類従 第七』続群書類従完成会、一九六九年）。『吏徴』は幕臣の向山源太夫（篤、誠齋・偶堂）編纂、弘化二年（一八四五）に成立した。

4 『明良帯録』では若年寄支配とあるが、誤記である可能性が高い。理由は、寛保から天保までの各『御触書集成』の「殿中席所并御長屋門中之口掛札等之部」の支配関係を列挙した触に、若年寄支配として幕奉行の役職名がなく、幕奉行が若年寄支配であったことを裏付ける証拠はない。また、『明良帯録』の記載においても、幕奉行の解説の前、具足奉行の解説の冒頭で、「以下五奉行ハ御留守居支配にて組頭卒史まであるなり」と記されている。この五奉行とは、具足奉行、幕奉行、鉄炮玉薬奉行、鉄炮筆筒奉行、弓矢鍵奉行を指す。五奉行を留守居支配としているにもかかわらず、幕奉行の項目では若年寄支配とあり、『明良帯録』の記述の中でも矛盾が生じているのである。従って、幕奉行は留守居支配であり、若年寄支配との記載は誤りであると考えら

れる。

- 5 国立公文書館所蔵「御幕奉行代々記」(請求番号:二二〇・〇〇七〇)。  
高柳眞三・石井良助編『御触書寛保集成』・『御触書宝曆集成』・『御触書天明集成』・『御触書天保集成』岩波書店、一九五八年(第二刷)。  
なお、後述の本文の書名下の番号は触の通し番号。
- 6 黒板勝美・国史大系編修会編『新訂増補 国史大系 徳川実紀』第二篇  
〜第一篇、吉川弘文館、一九八一〜一九八二年。黒板勝美・国史大系編修会編『新訂増補 国史大系 続徳川実紀』第一篇〜第五篇、吉川弘文館、一九八二年。
- 7 小中村清矩『官制沿革略史』吉川半七、一九〇〇年。和田英松『官職要解』明治書院、一九二六年。笹間良彦『江戸幕府役職集成(増補版)』雄山閣出版、一九九〇年。神宮司序編『古事類苑』官位部三、吉川弘文館、一九七八年(初版は一九〇五年)。日本国語大辞典 第二版 編集委員会・小学館国語辞典編集部編『日本国語大辞典 第二版』第十二卷、小学館、二〇〇一年。山本英貴「幕奉行」(大石学編『江戸幕府大事典』吉川弘文館、二〇〇九年、三九九頁)。
- 8 資料抽出にあたっては、主に当館所蔵の特定歴史公文書等の目録情報のデータベースである、国立公文書館デジタルアーカイブ(DA)を用いた。まず、DAのキーワード検索を利用し、「御幕 or 幕奉行」、「幕 and 同心」という検索用語を用いて該当資料を抽出した。その後、重複して検索された資料は調整し、原本を確認の上、幕奉行関係資料ではないと判断した資料は一覧から除外した。この他、キーワード検索ではヒットしなかったが、幕奉行関係資料であると判断した資料は一覧に加えた。ただし、現時点で、幕奉行、幕同心就任者全員の名前を把握できていないことから、検索漏れが生じている可能性もある。この点は留意頂きたい。今後、幕奉行関係資料の解説を進めることで、人名を明らかできると思われるが、それについては今後の課題としていく。
- 9 大賀妙子「江戸城多門櫓旧蔵文書について―その整理状況と若干の史料の考察―」『北の丸』第一〇号、一九七八年三月。熊井保「多聞櫓文書について―明治期の目録と由緒書の紹介―」『北の丸』第一六、一九八四年三月。津田秀夫「多聞櫓文書整理の現状―江戸幕府史料目録化の試み―」『北の丸』第一七、一九八五年三月。
- 10 国立公文書館所蔵「御幕奉行代々記」(請求番号:二二〇・〇〇七〇)、「御幕方記録」(請求番号:多六一〇〇五五)。
- 11 『明良帯録』(近藤瓶城編・近藤圭造校訂『改定史籍集覧第十一冊』近藤活版所、一九〇一年)。小中村清矩『官制沿革略史』吉川半七、一九〇〇年。和田英松『官職要解』明治書院、一九二六年。笹間良彦『江戸幕府役職集成(増補版)』雄山閣出版、一九九〇年。
- 12 東京大学史料編纂所「柳宮補任 四」東京大学出版会、一九六四年、三一〜三三頁。『柳宮補任』は幕臣の根岸衛篤が編纂した幕府諸役人の任免記録。安政五年(二八五八)に一応完成したが、慶応期までの加筆が見られる。
- 13 太田尚宏「江戸城多聞櫓文書「職制の部」解題」『北の丸』第二一号、一九九九年三月に、「御幕奉行吉見定右衛門儀病氣二付御役御免小普請入願奉願候覚」(多〇三五七二三)の翻刻が掲載されている。
- 14 豊前守、甲斐守、主膳正はいずれも留守居で、佐野政親(豊前守)、石川貞通(甲斐守)、柳生久通(主膳正)である。
- 15 補注  
なお、資料中の人名は、解説に際し、必要に応じて、主に『寛政重修諸家譜』、『柳宮補任』等を参照して、諱や役職名等を補った。  
(調査員)

参考表 幕奉行関係資料一覧

通番	書名(資料名)	請求番号	年月日	人名	数量	書誌事項	旧蔵者	画像
1	御目見以下之場所より御目見以上江被仰候者無之書付	多001901	天保06年04月	差出:御幕奉行鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
2	宇式長之助病氣二付宇式七兵衛儀御番代奉願度旨申候二付奉願候覚	多001991	文政11年07月	差出:荻野往助/宛名:鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
3	宇式長之助病氣二付西丸小人目付高津茂十郎第七兵衛御番代奉願候一札之事	多002003	文政11年07月	差出:御本丸御膳所六尺長之助弟上田惣兵衛/宛名:山川三郎次	1通	写本	多聞櫓	—
4	御預御多門向々所書付	多002011	—	その他:御幕奉行(包紙)/その他:鈴木/その他:中村	1通	写本	多聞櫓	—
5	御幕奉行鈴木善左衛門組同心宇式七兵衛御扶持方返納之儀二付覚	多002045	文政11年09月	差出:御留守居曲淵日向守/宛名:村垣淡路守	1通	写本	多聞櫓	—
6	御幕奉行鈴木善左衛門組同心宇式七兵衛御切米御扶持方之儀二付御勘定所江願	多002047	文政11年08月	差出:御幕奉行/差出:鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
7	御幕奉行鈴木善左衛門組同心宇式長之助御切米御扶持方上り候儀申上候書付	多002048	文政11年08月	差出:御幕奉行/差出:鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
8	組同心減候御届下書	多002353	文政11年08月	差出:御幕奉行鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
9	御幕奉行鈴木善左衛門組同心宇式長之助跡江宇式七兵衛御抱入奉願候覚	多002366	文政11年08月	差出:御幕奉行鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
10	御幕奉行鈴木善左衛門組同心宇式長之助御切米御扶持方上り候儀二付達候書付	多002407	文政11年08月20日	差出:鈴木善左衛門/宛名:野呂弥右衛門/宛名:今井兵左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
11	御幕奉行鈴木善左衛門組同心宇式長之助儀病氣二付御暇奉願候覚	多002408	文政11年08月	差出:御幕奉行鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
12	御幕奉行鈴木善左衛門組同心宇式長之助明跡江宇式七兵衛御抱入二付書付	多002410	文政11年08月	差出:御幕奉行鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
13	宇式長之助病氣二付私弟七兵衛儀御番代奉願候内談取極二付一札之事	多002413	文政11年07月	差出:御小人頭杉山八之助組西丸御小人目付高津茂十郎/宛名:山川三郎次	1通	写本	多聞櫓	—
14	表台所人吉野豊蔵拝領屋敷普請二付小林梅太郎方江同居奉願候書付	多002416	天保09年04月	差出:小林梅太郎/宛名:鈴木善右衛門	1通	写本	多聞櫓	—
15	日光御参詣之節御供組同心人数之儀申上候書付其外留	多002444	天保13年02月-天保13年07月	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
16	御支配御幕同心宇式長之助明跡江高津七兵衛儀御番代相願度候二付書付	多002451	文政11年08月03日	差出:杉山八之助/宛名:鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
17	御幕奉行鈴木善左衛門組同心明跡江宇式七兵衛御抱入二付御切米御扶持方願	多002452	文政11年	差出:御幕奉行/差出:鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
18	山木邦次郎 明細短冊	多003004	—	—	1枚	写本	多聞櫓	—
19	日光御供二付越前守殿御渡御書付其外留	多010633	天保13年12月-天保14年05月	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
20	日光社参之儀二付留書	多010773	明和04年05月-安永05年04月	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
21	月番留	多010774	宝永04年-宝永05年	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
22	日光御参詣二付御達書御廻状留	多010889	文政05年05月17日-文政05年08月	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
23	諸書付留	多011123	文政11年04月-天保01年08月	差出:鈴木善左衛門/差出:山田周蔵	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
24	書上并下々物其外御用留	多011129	天保09年-天保12年	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
25	諸書物目録	多011230	—	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
26	御幕虫干二付諸書物扣	多011231	安政05年05月-安政05年05月	差出:森川兵助	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
27	御役成之節手続書	多011271	文政05年11月	差出:御幕奉行吉見定右衛門	1冊	写本	多聞櫓	—
28	見出帳	多011272	安永05年08月-享和03年08月	その他:御幕奉行野田彦之進(表紙)	1冊	写本	多聞櫓	—
29	安永五申年日光御社参之節御供勤方之儀申上候書付	多011273	天保13年04月-天保13年04月	差出:中村又左衛門/差出:中村藤左衛門	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
30	御用留	多011274	天保11年05月-天保11年12月	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
31	日光御参詣御用書上留并日光御社参之節御用御道具取調書上帳	多011275	文政05年06月11日-天保13年02月	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
32	御幕奉行組同心笠印雛形	多011281	—	差出:野田彦之進/差出:前原八十郎	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
33	月番留	多011302	天保13年	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
34	幕奉行組分切米扶持請取下書	多011308	天保05年-天保06年	—	2通	写本	多聞櫓	—
35	未卯年日光社参之儀二付留書(前欠・後欠)	多011337	天保13年09月-天保13年12月	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
36	御幕方御用之留帳(享保二酉年より宝暦五亥年迄)	多011388	安永01年	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
37	御裏門切手番之頭小野田三郎右衛門儀御幕奉行可被仰付裁之旨伺	多011504	文久01年12月22日	差出:大和守	1通	写本	多聞櫓	—
38	御幕奉行誓詞	多012530	文化11年01月	その他:野田彦之進	1通	写本	多聞櫓	—
39	御幕奉行組同心誓詞	多012551	文政01年11月	差出:丹沢庄右衛門/宛名:野田彦之進/宛名:前原八十郎	1通	写本(原本)	多聞櫓	—
40	御幕奉行組同心誓詞	多012552	嘉永07年06月29日	差出:山川金之助/差出:小林新之助/差出:笠嶋栄次郎/宛名:石津九兵衛/宛名:森川兵助	1通	写本(原本)	多聞櫓	—



通番	書名(資料名)	請求番号	年月日	人名	数量	書誌事項	旧蔵者	画像
41	御幕奉行組同心誓詞	多012553	天保14年11月	差出:小林平三郎/宛名:石津九兵衛/宛名:森川兵助	1通	写本(原本)	多聞櫓	—
42	御幕奉行組同心誓詞	多012569	寛延04年04月06日	差出:丹沢園右衛門/差出:宇敷定右衛門/差出:金子平右衛門/差出:平野三郎兵衛/差出:山川三郎右衛門/差出:萩野平八郎/差出:小林源兵衛/差出:萩野市右衛門/宛名:横山源五郎/宛名:吉岡四郎右衛門	1通	写本(原本)	多聞櫓	—
43	御幕奉行誓詞	多012585	—	—	1通	写本	多聞櫓	—
44	御幕奉行組同心誓詞	多012633	—	—	1通	写本	多聞櫓	—
45	御休息御小納戸向并御成先御用作事方江請取置候御幕之覚	多012806	享保08年04月	差出:依田藤左衛門/宛名:海野新左衛門殿/宛名:跡部与一郎殿/宛名:石川兵左衛門殿	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
46	請取申御幕之事	多012810	延宝07年06月29日	差出:向井兵庫助/宛名:難波善左衛門殿/宛名:伊吹市右衛門殿/宛名:余語源三郎殿/差出:坂部市平殿	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
47	請取申御幕之事	多012813	享保08年05月	差出:三宅雲八郎/差出:久保十兵衛/差出:松平左源次/差出:渡邊久左衛門/宛名:跡部与市郎/宛名:石川兵左衛門/宛名:海野新左衛門	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
48	御幕請取之儀二付覚	多013952	享保08年04月	差出:海野新五左衛門/差出:植木藤助/差出:伴弥一左衛門/差出:千種忠兵衛/差出:志村藤十郎/差出:盛長四郎/宛名:海野新左衛門殿/宛名:跡部与一郎殿/宛名:石川兵左衛門殿	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
49	竹姫様為御用御幕請取候覚	多013954	宝永07年12月	差出:大久保淡路守/宛名:加藤久大夫殿/宛名:杉山七左衛門殿/宛名:福王忠左衛門殿/差出:沢平吉殿	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
50	御具足差置候二付書付	多014876	—	差出:赤井孫四郎/差出:佐久間鞠貞/宛名:石津九兵衛/宛名:森川兵助	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
51	黒鍬之者御屋御断書付	多027110	—	その他:御幕奉行石津九兵衛/その他:御幕奉行森川兵助	2通	写本	多聞櫓	—
52	御幕奉行山木邦次郎組同心笠嶋茶次郎借地借宅仕候書付	多029031	安政06年02月	差出:山木邦次郎	2通	写本	多聞櫓	—
53	去夏御救拝借米返納之分申冬御切米之内より返納二付書付	多029051	—	差出:国領市左衛門/差出:岡部半九郎/差出:本山弥太郎	2枚	写本(原本)	多聞櫓	—
54	綾川善九郎四ヶ年之内両度類焼二付拝借金其外御届等之留	多029194	文化06年01月	差出:御幕奉行	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
55	拝借返済金請取証文覚	多029205	享保17年12月06日	差出:伴藤五郎/差出:関口九郎兵衛/差出:黒沢直右衛門/差出:戸田忠兵衛/宛名:跡部与一郎/宛名:石川兵左衛門	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
56	田付四郎兵衛江此方御預り御幕借用の為致候儀二付書留	多029384	元文03年05月	その他:御幕奉行跡部与一郎/その他:御幕奉行三橋勘兵衛	1通	写本	多聞櫓	—
57	御幕奉行鈴木善左衛門組同心宇式長之助儀病氣二付御暇被下置度旨奉願候覚	多030022	文政11年08月	差出:御幕奉行鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
58	御幕奉行鈴木善左衛門組同心宇式長之助跡江宇式七兵衛御抱入奉願候覚	多030027	文政11年08月	差出:御幕奉行鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
59	御幕奉行鈴木善左衛門組同心宇式長之助跡江宇式七兵衛御抱入奉願候覚	多030034	文政11年08月	差出:御幕奉行鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
60	病氣二付御役御免小普請入願奉願候覚	多030325	天保07年12月	差出:御幕奉行石寺八藏/宛名:松平内匠頭	1通	写本	多聞櫓	—
61	奉願候覚病氣二付御役御免小普請入願	多030326	天保07年03月	差出:御幕奉行山田周藏/宛名:松平内匠頭	1通	写本	多聞櫓	—
62	指物雛形之儀二付申上候書付	多030383	万延01年08月	その他:御幕奉行加藤權之助/その他:御幕奉行山本邦次郎/その他:御幕奉行(端裏)	1通	写本	多聞櫓	—
63	御幕奉行預り御幕之儀二付書付	多031103	—	宛名:大屋遠江守	1通	写本	多聞櫓	—
64	非常之節御多門江罷出候心得方書付控	多031482	—	差出:鈴木善左衛門/差出:山田周藏	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
65	御幕其外御道具類御替移之儀二付奉伺候書付下書	多031503	—	その他:御幕奉行石津九兵衛/その他:御幕奉行森川兵助	1通	写本	多聞櫓	—
66	御鉄砲玉葉奉行ほか夏中も足袋相用申渡奉願候書付	多031543	—	差出:小林幸八郎/差出:瀧沢佐太郎/差出:吉田勇太郎/差出:佐久間利太夫/差出:大岡源右衛門/差出:羽田平五郎/差出:熊谷大助/差出:鈴木善左衛門/差出:山田周藏	1通	写本(原本)	多聞櫓	—

通番	書名(資料名)	請求番号	年月日	人名	数量	書誌事項	旧蔵者	画像
67	宇式鉄三郎儀御幕奉行鈴木善左衛門組同心二御抱入二付切米扶持御断状案	多031544	天保09年11月	差出:御留守居石河土佐守/宛名:勘定奉行内藤隼人正	1通	写本	多聞櫓	—
68	御幕奉行鈴木善左衛門組同心宇式長之助儀病氣二付御暇奉願候覚	多031545	文政11年08月	差出:御幕奉行鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
69	紛失物尋書付写	多031546	天保08年02月04日	差出:御幕奉行鈴木善左衛門組御幕同心金子定右衛門/宛名:火附盜賊御改岡部内匠御組星野幸右衛門	1通	写本	多聞櫓	—
70	宇式七兵衛実子鉄三郎儀明跡江御抱入被仰付度候書付	多031547	天保09年10月	差出:御幕奉行鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
71	御畳方請取物御断写	多031548	天保08年05月	その他:御幕奉行鈴木善左衛門/その他:御幕奉行中村又左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
72	御幕奉行吉見定右衛門組同心金子平四郎実子惣領御抱入奉願候覚	多031636	天保07年12月	差出:御幕奉行吉見定右衛門	1通	写本	多聞櫓	—
73	御台所断御預多門風入仕候二付	多033195	—	その他:御幕奉行鈴木善左衛門/その他:御幕奉行山田周蔵/その他:曲淵甲斐守(端裏)	1通	写本	多聞櫓	—
74	竹橋御蔵地内明屋敷御土蔵引渡可申儀二付書付	多033582	—	差出:閑播磨守/宛名:森川兵助	1通	写本(原本)	多聞櫓	—
75	百人組番所協御多門御返却被下候様御掛合二及候書付	多033593	—	差出:石津九兵衛/差出:森川兵助	1通	写本(原本)	多聞櫓	—
76	大御奥御用二付純子御幕等請取申候段覚	多033833	元禄12年11月05日	差出:松平主計頭/差出:大久保玄蕃頭/宛名:加藤久太夫/宛名:杉山七左衛門/宛名:福口忠左衛門/宛名:志村金五郎	1通	写本	多聞櫓	—
77	御幕奉行吉見定右衛門儀病氣二付御役御免小普請入願奉願候覚	多035723	文政11年12月	差出:吉見定右衛門/宛名:石河甲斐守	1通	写本	多聞櫓	—
78	享保九年辰七月十四日大久保下野守殿於御城御渡被成候御書付式通之内	多035899	—	—	2通	写本	多聞櫓	—
79	私共並組同心屋敷帳取調二付書付	多036806	安政06年10月	差出:加藤権之助/差出:山木邦次郎	1通	写本	多聞櫓	—
80	地面賃置候小林忠五郎返地御届	多037421	—	差出:宇式鉄三郎/宛名:鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
81	小普請久留十左衛門組矢橋善兵衛江借地願	多037594	天保10年01月	差出:佐藤庄司	1通	写本	多聞櫓	—
82	借地被仰付候二付昨日引移申候段覚	多038046	—	差出:笠嶋栄次郎	1通	写本	多聞櫓	—
83	請取申田町交御幕之事	多038118	寛政02年	差出:内藤九十郎/宛名:園領市左衛門/宛名:大野左門	1通	写本	多聞櫓	—
84	誓詞	多038171	元文04年04月17日	差出:金子平右衛門/差出:小林源兵衛/差出:宇敷定右衛門/差出:丹沢園右衛門/差出:萩野平八郎/差出:山川八兵衛/差出:平野三郎兵衛/差出:野口半右衛門/宛名:跡部与一郎/宛名:横山源五郎	1通	写本	多聞櫓	—
85	素読吟味之者無御座段御届	多038209	—	差出:御幕奉行鈴木善左衛門/差出:御幕奉行中村又左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
86	去儿申年類焼御幕同心萩野平八郎金三両拝借丑年四度目之請取証文	多038264	享保18年12月12日	差出:伴藤五郎/差出:関口九郎兵衛/差出:黒沢直右衛門/差出:戸田忠兵衛/宛名:跡部与一郎/宛名:三橋勘兵衛	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
87	日光道中小宿割控帳	多038543	—	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
88	御幕奉行以下支配同心拝領屋敷書上	多038978	寛政09年04月	差出:本多金左衛門/差出:蜷川善九郎	1通	写本	多聞櫓	—
89	御幕奉行山田周蔵儀老衰其上病氣二付御役御免小普請入二付書付	多039369	天保07年04月09日	差出:小普請組支配/宛名:御留守居衆	1通	写本	多聞櫓	—
90	御幕其外御道具類持運人足賃銀二付書付	多039370	安政03年09月	差出:加賀谷治助	1通	写本(原本)	多聞櫓	—
91	御幕奉行同心金子平四郎儀御暇之段可申渡書付	多039393	天保07年12月27日	宛名:御留守居	1通	写本	多聞櫓	—
92	富士見御宝蔵番組中定書	多039811	文政01年02月	差出:小林右兵衛/差出:金子平四郎/差出:山川三郎治/差出:萩野鉄助/差出:佐藤庄司/差出:丹澤源次郎/差出:宇式長之助/差出:平野英太郎/差出:丹沢庄右衛門	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
93	請取申春御借米之事	多040007	文政11年	差出:鈴木善左衛門/宛名:両宛所	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—

通番	書名(資料名)	請求番号	年月日	人名	数量	書誌事項	旧蔵者	画像
94	御幕奉行鈴木善左衛門組同心萩野両助儀上地屋敷御預之儀二付申上候書付	多040008	天保05年03月13日	差出:泉本主水正/宛名:御留守居衆	1通	写本	多聞櫓	—
95	年始御礼之段御目付衆より達二付御寛申上候書付	多040155	元治01年12月	—	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
96	御幕串御返却仕候旨手紙	多041046	—	差出:山本庄三郎/宛名:野田彦之進	1通	写本	多聞櫓	—
97	西丸切手御門番元同心平岡忠太郎上地拙者江御預被成御渡候段申上候書付	多041335	天保05年03月15日	差出:萩野両助	1通	写本	多聞櫓	—
98	平岡忠太郎屋敷上地二相成私江御預被成り候段御届申上候書付	多041336	天保05年03月15日	差出:萩野両助	1通	写本(原本)	多聞櫓	—
99	平岡忠太郎上ヶ地私組同心萩野両助江御預ヶ地相成候御届書	多041337	天保05年03月16日	差出:鈴木善左衛門	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
100	御届書三通	多041338	—	差出:萩野両助	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
101	達書写一通相達候書付	多041339	天保05年03月13日	差出:荒川土佐守/差出:鈴木善左衛門	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
102	御幕申請取度及掛合候書付	多041761	—	差出:稲田八郎右衛門/差出:河合与左衛門/宛名:御幕奉行中	1通	写本	多聞櫓	—
103	御用向書上并当用留帳(後欠)	多042090	安永09年08月	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
104	五奉行組同心日光山御供之儀二付書付留書	多042144	天保13年05月 - 天保13年06月	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
105	御幕奉行御用留	多042156	—	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
106	御幕奉行組同心誓詞	多042180	宝暦03年04月11日	差出:三浦丑之助/差出:金子茂八郎/宛名:横山源五郎	1通	写本(原本)	多聞櫓	—
107	御幕奉行組同心誓詞	多042674	—	—	1通	写本	多聞櫓	—
108	年齢御届之覚	多042757	宝暦01年04月	—	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
109	御幕奉行御役中間上ヶ地御預り二付書状	多042931	寛政04年06月09日	差出:御幕奉行大野左門・長谷川藤太郎組同心金子平四郎、平野門十郎、山川三郎右衛門、小林徳次郎、丹沢園右衛門、萩野源蔵/宛名:御普請方改役林部善太左衛門、端山定五郎	1通/1枚	写本	多聞櫓	—
110	御幕多門之絵図	多042987	—	—	1通	写本	多聞櫓	—
111	袋式番町御幕奉行本多金左衛門拝領屋敷絵図面	多042994	—	—	1枚	写本	多聞櫓	—
112	幕奉行同心字敷定右衛門老衰二付実子権内江代番願書付	多043035	—	—	1通	写本	多聞櫓	—
113	竹橋御蔵地御土蔵御明渡方之儀御修復出来次第御渡可申旨書付	多610002	—	差出:菊池大助/差出:宮田菅太郎/宛名:石津九兵衛/宛名:森川兵助	1枚	写本(原本)	多聞櫓	—
114	御幕方記録	多610055	—	—	1冊	写本(原本)	多聞櫓	—
115	覚(浜御殿御茶屋御用御幕請取候旨)	多700024	宝永07年06月18日	差出:岡司半兵衛/宛名:沢平吉	1通	写本	多聞櫓	—
116	日光御参詣御用之儀二付手紙	多700418	—	差出:羽倉外記/宛名:中村又左衛門/宛名:石津九兵衛	1通	写本	多聞櫓	—
117	御幕奉行組同心佐藤庄司御居宅類焼之覚	多700641	—	—	1枚	写本	多聞櫓	—
118	十一日御多門へ可罷出旨御請	多700667	—	差出:佐藤庄司/宛名:鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
119	教宮御下向御用二付致借借候御幕串返却致候旨手紙	多700707	—	差出:山本庄三郎/宛名:御幕奉行中	1通	写本	多聞櫓	—
120	御幕其外御道具類竹橋内御蔵地へ引移日限相達可申段書付	多700758	—	—	1通	写本	多聞櫓	—
121	今日中御越候様致度段申進候手紙	多700759	—	差出:土屋紀伊守/宛名:石津九兵衛	1通	写本	多聞櫓	—
122	落馬之痛強今日難被参旨承知之段手紙	多700760	—	差出:土屋紀伊守/宛名:石津九兵衛	1通	写本	多聞櫓	—
123	御幕長持其外御道具類竹橋内御蔵地へ御引移候趣組支配へ相達可申旨手紙	多700761	—	差出:土屋紀伊守/宛名:石津九兵衛	1通	写本	多聞櫓	—
124	御広敷番之頭より御幕串受取之儀二付手紙(後欠)	多700776	—	差出:中村又左衛門/宛名:鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
125	御幕奉行組同心・宇式銀蔵居宅類焼御救金之儀ほか書付(前後欠)	多700867	—	差出:御幕奉行大野左門/差出:御幕奉行長谷川藤太郎	1通	写本	多聞櫓	—
126	御幕其外御道具類移替不残相濟候段承知候書付	多700882	—	差出:土屋紀伊守/宛名:石津九兵衛	1通	写本	多聞櫓	—
127	類焼御届(拝領屋鋪門長屋住居向不残類焼)	多701141	—	差出:御幕奉行森川兵助	1通	写本	多聞櫓	—
128	百人組御番所脇御多門御幕方へ引渡候儀二付書付(後欠)	多701522	—	その他:赤井孫四郎(端裏)/その他:佐久間朝貞(端裏)	1通	写本	多聞櫓	—
129	御組同心宇式長之助御暇出候旨致承知候書付(前欠)	多701575	—	—	1通	写本	多聞櫓	—

通番	書名(資料名)	請求番号	年月日	人名	数量	書誌事項	旧蔵者	画像
130	御幕多門え御幕移替二付黒織之者通行之儀二付手紙(前欠)	多702350	—	差出:関播磨守/宛名:森川兵助	1通	写本	多聞櫓	—
131	小林梅太郎類焼二付被下金奉請取候旨覚	多702575	—	差出:荻野口助	1通	写本	多聞櫓	—
132	太平布不残小納戸(木村刀太郎殿同心)え返納致候旨書付(御出役大野左門・同本多金左衛門・組之者佐藤伝四郎・同小林源兵衛)(前後欠)	多702750	—	—	1通	写本	多聞櫓	—
133	御幕奉行鈴木善左衛門組同心宇式長之助美子無御座候二付同七兵衛番代願	多702905	文政11年07月	差出:宇式長之助/宛名:鈴木善左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
134	評定所にて御誓詞首尾能相済大慶之旨ほか手紙	多702957	—	差出:吉岡四郎右衛門/宛名:横山源五郎	1通	写本	多聞櫓	—
135	御役御免奉願候書付(包紙のみ)	多703227	—	その他:御幕奉行山田周蔵(表)	1その他	写本	多聞櫓	—
136	清水御門渡御櫓修復中帳面入候長持十棒当分御預申候旨覚(後欠)	多703443	—	差出:御幕奉行鈴木善左衛門/差出:山田周蔵	1通	写本	多聞櫓	—
137	御幕奉行勤役中書物四冊萩野伊三郎え相渡申候間御落手可給旨ほか手紙(後欠)	多703744	—	差出:中村口口/宛名:中村又左衛門	1通	写本	多聞櫓	—
138	御幕奉行組同心誓紙巻通(包紙のみ)	多703827	—	その他:金子茂八郎(表)/その他:三浦丑之助(表)	1その他	写本	多聞櫓	—
139	組同心俵見習御奉公之儀二付奉伺候書付	多703910	—	その他:山木邦次郎(表)	1その他	写本	多聞櫓	—
140	奉願上候覚	多703911	—	その他:御幕奉行山木邦次郎組同心金子富右衛門(表)	1その他	写本	多聞櫓	—
141	人足遣候儀御武器掛及問合候儀二付手紙	多704065	—	差出:関播磨守/宛名:森川兵助	1通	写本	多聞櫓	—
142	御幕移替之節入候書類御門断等之儀二付手紙	多704080	—	差出:土屋紀伊守/宛名:石津九兵衛	1通	写本	多聞櫓	—
143	御役成之節諸願有無書付差出候節之心得(手紙)	多704087	—	差出:森下弥士馬/差出:牧野貴/差出:高木義助/宛名:野田彦之進様御家来中	1通	写本	多聞櫓	—
144	安政三辰年九月 竹橋御門内明屋敷御土蔵御修復二付百人組番所脇御多門御幕其外御道具御移替二付掛合其外御届書付入	多704101	—	—	1その他	写本	多聞櫓	—
145	拝借金取越米仕候儀・月番出来兼候旨ほか手紙	多704108	—	差出:森川兵助/宛名:石(津)九兵衛	1通	写本	多聞櫓	—
146	御櫓御多門之内諸帳面旧記類入候儀無御座候書付	多704300	—	その他:御幕奉行(端裏)	1通	写本	多聞櫓	—
147	御賞渡御蔵受取方之儀二付手紙(後欠)	多704301	—	差出:土屋紀伊守/宛名:石津九兵衛	1通	写本	多聞櫓	—
148	素読御吟味之儀二付申上候書付	多704415	—	その他:御幕奉行(表)	2通	写本	多聞櫓	—
149	御幕奉行森川兵助組佐藤庄司居宅類焼二付春夏御借米取越為請取申度旨書付ほか写	多704845	弘化03年01月	差出:御幕奉行森川兵助/宛名:美濃部庄右衛門/宛名:尾崎金之助	2枚	写本	多聞櫓	—
150	宝永四丁亥正月より之口(御幕奉行)	多705075	—	—	2枚	写本	多聞櫓	—
151	人馬御証文案之儀申上候書付・日光御参詣御行列上覧之儀申上候書付ほか	多705104	—	差出:御幕奉行(石津九兵衛)/差出:御幕奉行(中村又左衛門)	3枚	写本	多聞櫓	—
152	日光迄宿見之者(御幕同心金子定右衛門・同萩野伊三郎)罷帰候御届書ほか	多705144	—	—	2枚	写本	多聞櫓	—
153	天保五年七月十四日於山田周蔵宅見届(前後欠)	多705202	—	—	1枚	写本	多聞櫓	—
154	日光御参詣之節持参御幕員数并其外御品御修復仕様ほか	多705305	—	—	4枚	写本	多聞櫓	—
155	日光御用留帳	143-0150	—	—	1冊	写本	—	有
156	御具足御幕方御預御武器類(『御船具御武器類書上』所収)	154-0031(冊次10)	(弘化02年12月)/弘化02年-嘉永01年	—	10冊	写本	—	有
157	御幕仕立書	154-0176	—	—	1冊	写本	—	有
158	御書附御達書御廻状留	180-0107	享和02年-享和03年	—	2冊	写本, 御幕方	多聞櫓	有
159	御留守居衆より御達物留	180-0122	文政11年-天保02年	—	1冊	写本	多聞櫓	有
160	廻状留	181-0020	—	—	1冊	写本, 御幕方	多聞櫓	有
161	御幕奉行代々記	220-0070	—	—	1冊	写本	多聞櫓	有
162	御幕奉行御用留	220-0073	—	—	1冊	写本	多聞櫓	有
163	御幕奉行御用向書上并当用留帳	220-0079	明和02年-安永04年	—	2冊	写本	多聞櫓	有
164	非常之節為心得申上候書附	220-0107	天保11年-天保12年	—	1冊	写本	多聞櫓	有
165	御幕奉行吉見定右衛門日記	257-0047	文政05年-文政07年	著者:吉見定右衛門	1冊	写本, 文政	多聞櫓	有

※国立公文書館デジタルアーカイブ(DA)より作成。

なお、一覧の右端「画像」の項目は、DAに画像が掲載されているか否かを示している。